



大河ドラマ「どうする家康」放送に伴う経済波及効果について

浜松市は、大河ドラマ「どうする家康」の放送を契機に、官民一体となって家康プロジェクトを推進し観光誘客に取り組んだ結果、誘客の核として設置した大河ドラマ館には、目標の50万人を大きく上回る約64万人もの来館者を迎え入れることができました。

大河ドラマ館や家康公ゆかりの地をはじめ、この地域を訪れた観光客は、浜松市内及び静岡県内において飲食・宿泊・買い物・移動などの観光消費を行いました。今回、こうした観光消費による実態を把握するため、浜松市内及び静岡県内への経済波及効果を算出いたしましたので、ご報告いたします。

記

大河ドラマ「どうする家康」の放送年（令和5年1月～12月）の観光客増加に伴う経済波及効果は、浜松市内で318億円、静岡県内で408億円となりました。

	経済波及効果 (A)+(B)	直接効果(A)	間接効果(B)
浜松市内	318億円	212億円	106億円
静岡県内	408億円	264億円	144億円

経済波及効果 = 直接効果 + 間接効果

直接効果：大河ドラマ「どうする家康」の放送により、浜松市を訪れる観光客数が増加することで、市内及び県内の観光消費額が増加する効果

間接効果：観光消費額の増加によって生じた原材料ベースへの生産波及および雇用者所得の増加分が消費へ波及することによってもたらされる間接的な効果

※経済波及効果の算出は、(一財)しんきん経済研究所に委託して実施

<参考> 大河ドラマ「おんな城主 直虎」放送年（平成29年）における実績

	経済波及効果 (A)+(B)	直接効果(A)	間接効果(B)
浜松市内	207億円	139億円	68億円
静岡県内	248億円	155億円	93億円

経済波及効果の算出方法

1 直接効果の算出方法

経済波及効果の起点となる直接効果の対象と算出方法は次のとおりとする。

直接効果 = (1)観光客の増加数 × (2)一人あたりの消費支出額

- ・浜松市内の直接効果 ≒ 212 億円
- ・静岡県内の直接効果 ≒ 264 億円

(1) 観光客の増加数

観光客の増加数は、浜松市が集計する観光交流客数を算出根拠とする。

対象期間は令和5年1～12月とし、前年（令和4年）同月からの増加人数を用いる。

実人数は、静岡県統計資料（※1）を用いて推計する。

- ・日帰り客増加数（実人数）276.7万人
- ・日本人宿泊客増加数（実人数）9.6万人

<参考> 大河ドラマ「おんな城主 直虎」放送年（平成29年）における実績

- ・日帰り客増加数（実人数）183.4万人
- ・日本人宿泊客増加数（実人数）4.4万人

※1 「令和3年度静岡県における観光の流動実態と満足度調査」

静岡県西部地域の平均宿泊日数1.56日、日帰り客平均立寄数1.36等

(2) 一人あたりの消費支出額

一人あたりの消費支出額は、大河ドラマ館周辺で実施したアンケート調査をもとに推計する。

単位：円

	旅程	交通費	飲食費	宿泊費	買物代	合計
浜松市内での消費	日帰り	1,231	2,395		3,055	6,681
	宿泊	2,065	7,527	13,222	5,831	28,645
静岡県内での消費	日帰り	2,382	2,617		3,252	8,251
	宿泊	6,117	9,172	13,891	7,807	36,987

<参考> 大河ドラマ「おんな城主 直虎」放送年（平成29年）における実績

単位：円

	旅程	交通費	飲食費	宿泊費	買物代	合計
浜松市内での消費	日帰り	1,415	2,006		3,429	6,850
	宿泊	5,051	5,519	11,752	9,939	32,261
静岡県内での消費	日帰り	1,779	2,142		3,545	7,466
	宿泊	9,634	6,423	13,997	10,732	40,786

2 間接効果の算出方法

間接効果は経済波及効果算出の基となる産業連関表を用いて算出する。

なお、間接効果を算出する際に必要な直接効果の各産業部門への振り分けは、観光客一人あたりの消費支出額の内訳を基に以下のとおりとする。

単位：百万円

費目	交通費	飲食費	宿泊費	買物代	観光消費総額
浜松市内への直接効果	3,606	7,357	1,281	9,019	21,263
静岡県内への直接効果	7,184	8,131	1,346	9,755	26,416
産業連関表の業種	運輸業	個人サービス業	個人サービス業	商業	

3 アンケート調査結果

- ・実施日：令和5年5月15日～10月15日
- ・調査場所：大河ドラマ館受付窓口付近にて
- ・回答数：1,176件



